

# 今年度の活動を振り返って

## 朝日庄内森林生態系保全センター

当センターは、朝日山地の保全業務を中心に、庄内海岸線の森林整備や森林環境教育を行っています。

朝日山地森林生態系保護地域は山形県と新潟県に跨がる約7万haが指定され、その内、山形県は約4万8千haが保護地域となっています。この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、我が国最大規模のブナ林等原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られるなど、変化に富んだ種々の生態系が展開し、多様な動植物が生息、生育しています。

### 森林の適正な管理

○スノーモービルの規制  
月山麓では、毎年春分の日前後から5月連休までスノーモービルが乗り入れており、隣接する朝日山地森林生態系保護地域への乗り入れ規制等のパトロールを環境倉等と連携して実施しています。月山山麓では、地元のスノーモービル愛好者団体が中心となつて作成した自主ルール「月山特別ルール」によって、入山期間や入山台数、乗り入れ箇所等が決められており、樹木損傷の有無、走行エリアの遵守状況や動物の生息確認等のパトロールを実施しています。今シーズンのパトロールでもトラックベルトによる樹木の損傷が確認され、テープ表示による注意喚起とスノーモービル愛好団体の指導を行いました。また、例年に比べ積雪が少なく乗り入れ期間が短くなったことから、スノーモービルの乗り入れも例年の6割程度でした。



トラックベルトで損傷した枝

○朝日山地合同パトロール  
朝日山地の保全を目的とした合同パトロールを9月12日(月) 深流コース、9月24日(土) 山岳コース(小朝日岳)、9月24日(土) 25日(日) 山岳コース(以東岳)に巡回員、環境倉、局、関係者の協力を得て開催しました。深流コースのパトロールは、朝日山地のモニタリング調査に併せて禁漁区域に釣りの人の痕跡やゴミの放置がなかったことを確認しましたが、形跡は見当たりませんでした。山岳コースのパトロールは、

登山道へのマナーの呼びかけ



登山者へマナーの呼びかけ

登山道の規制ロープの点検、森林病虫害(マツノクロボシ八八子等)の状況確認、高山植物の盗掘・踏み荒らしの点検、保護地域の表示看板の整備、登山者へマナーの呼びかけを行いました。今回のパトロールで気が付いた点は、登山道からはみ出しや、ストックによる土壌の掘り起こしが見受けられました。環境倉では朝日山地の保全作業(主に登山道の補修・保護)を実施しており、センターでも資材提供や保全活動に参加していますが、センター主体の保全作業も検討したいと思います。

### 保護林の看板整備

朝日山地森林生態系保護地域の取組と区域を明示するため、保存地区と保全利用地区の境にそれぞれ説明看板を整備しています。経年設置に伴い破損した看板の付け替えや設置場所が正しいのかGPSで確認しながらの作業となります。特に保存地区は登山道入口から4～5時間の場所が多くあり、夏場の作業は根気と体力の勝負となります。

### 人工林から天然生林への誘導

朝日山地内に含まれる人工林については、育成後薄層林施設等針広混交林化を図るために必要な施肥を行い、将来は天然林に導くこととされています。そのため、人工林を天然生林へ誘導するにあたり、どのような更新補助作業等が効果的であるか検証するため、技術開発課題として今年度から取り組んでいます。6月14日(火)、天然生林への誘導手法を模索するため設置した調査プロット20m×20m×2箇所内の林植生調査を山形大学農学部准教授及び学生の協力を得て実施しました。この調査は、間伐等により空いた林地に侵入した樹種の生長を把握するため、胸高直径4cm未満かつ樹高1.5m以上の全ての植生を調べ、番号を付けるという大変根気のいるもので、平成32年度までの5年間、毎年度実施します。また、7月14日には、2箇所のプロットにおいて、地元鶴岡市のあさひ小学校5年生による更新補助作業(草刈り、ふる切り)や、山取苗、実生苗の植栽を実施しました。



山形大学の学生による調査

### 自然再生の取組

○最上川スキー場跡地の再生  
最上川スキー場跡地の復旧に取り組むため、平成18年に土湯の森自然再生基本構想が作成され、原則として自然の回復力を活用して森林を再生することを目標に平成19年から更新補助作業やモニタリング調査を毎年継続して行いま

した。今年は、10月11日(火)に、山形大学農学部の准教授、学生、地元住民、自然保護団体、山形県、戸沢村の協力を頂き、総勢26名により植生モニタリング調査を実施しました。今年度10年間の調査が終了することから、データを整理・分析し、成果の公表を行うこととしています。

### 合同保全作業

朝日連峰保全協議会(事務局：環境倉)が主催する合同保全作業が8月27日にオツボ峰(以東岳の北側)で実施されました。この取組は、環境倉が借り受けている主要な登山道の整備を山形大学や各山岳会が協同して行っている事業で当センターも参加しています。(今年は、前線による悪天候の影響で参加を断念しました。)

### 林地の保全

登山道を外れてシヨートカットする登山者が後を絶たないため山腹が荒廃している箇所があります。今年度センターの新たな取組としてシヨートカットを規制するロープを設置しました。設置にあたっては、設置目的を記載したプレートに付けて理解を求めて参りましたが、後日の点検ではロープやプレートが人為的に外されている箇所があり、改めて規制の難しさを感じました。

### 森林環境教育の取組

#### 朝日自然塾

朝日山地及びその周辺地域において、小中学生の親子及び関心を持つ一般者を対象に貴重な自然や森林の恩恵を受けている人間社会の一員として、森林や自然の動きを体感し自然との付き合い方を学ぶ

#### 朝日自然塾のプログラム

回数	開催日	プログラム名	備考
1	H28. 5.22	マタギ文化とやまの森 新緑ブナ林教室 (白布平)	実施済
2	H28. 7. 9	ハッコウトンボ観察&灯火採集 大井沢で一日昆虫博士	実施済
3	H28. 7.15	みんなで歩こう タキタロウへの道	実施済
4	H28. 7.23	プロが教えるイワナ釣り	実施済
5	H29. 3.11	かんじきトロッピング&華麗づくり体験	



イワナ釣りに夢中な参加者



今年度の事業計画を協議

8・11) 記念として5回計画しました。

プログラムの内容、実施時期等の工夫を重ねながら実施していますが、参加者が集まりにくいものもありました。今後、内容を検討し関係者との調整を図りながら見直しを行う予定です。

### みどりの保育園

西荒瀬保育園(酒田市)は、海岸林に隣接しているため、庄内森林管理署と「遊々の森」の協定を締結し、その海岸林を利用した森林環境教育を年間13回実施しています。その内センターではクロマツ探検隊(観察会)等を3回実施しています。

### 海岸林の森林整備等

#### 森林整備の指導

庄内海岸林は、山形県の北西部、日本海に面した位置にあり長さ33km、幅1.5km、3.3km、総面積2,500haと広大な面積を有している森林です。庄内海岸林は、日本海の強風による飛砂の影響を防ぐ役割を担っています。松林を保全するため行政機関やNPO団体が海岸林の保全事業(巡回)を行っていています。今年度は、企業による間伐作業(鶴岡市)や地元の小中学生に森林整備等(遊佐町、酒田市)に作業の指導者として参加しました。



クロマツの枝落し

### 二ホンシカ目撃情報の収集

山形県でも平成21年以降、二ホンシカが目撃されており、その目撃は全県に広がっています。朝日山地に近い鶴岡市や小国町でも多く目撃されていることから、今年度から巡回員、山岳会、猟友会、溪流釣り協議会等の会員から目撃情報を収集しています。

### 地域イベント等でPR

森林生態系保全センターの業務をより多くの方に理解して頂くため、林政協議会等の各種会議での説明や事業の取組結果をHPに掲載してPRに努めています。



HPに掲載している活動結果